

2024 年度 第 8 回 (通算第 18 回) 北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者：岩本駿士 (札幌地区)

【日時】 11 月 3 日 (日)・11 月 4 日 (月)

【場所】 11 月 3 日 (日) TOMASEI フットボールフィールド

11 月 4 日 (月) 北海道科学大学高等学校

札幌サッカーアミューズメントパーク室内競技場

【参加者】 審判員：高須賀哲平 丑屋幸大 岩本駿士

インストラクター：古曾部統太郎氏 (RAM) 今川一輔氏 (RAI) 岡田渉氏 (RAI)

オブザーバー：細谷励氏 山口麗弥氏 一瀬哲平氏 田口平蔵氏 (道強化指定)

船橋昭次氏 (1 級審判員) 吉村心氏 (道科学大高・3 級審判員)

【テーマ】 9 地域で 1 番になる

11 月 3 日 (土)

8:30 集合

9:30 試合実践 2024 年度高校ユース (U-17)

新人サッカー大会道南ブロック大会

北海道大谷室蘭高等学校 vs 北海道静内高等学校

R: 岩本 A1: 細谷氏 4th: 丑屋 INS: 今川氏



【INS 分析】

全体的に落ちついてレフェリングを行っていた印象で成長が感じられた試合でした。アドバイスは次の 2 点です。①アウトオブプレー時の気付きを大切にしてください (交代や負傷者の有無など)。②アシスタントサイド付近のポジショニングを工夫する (PA 内やポケットを含む)。各試合で動き方をチャレンジして自分の体で覚えてください。

北海道栄高等学校 vs 駒澤大学付属苫小牧高等学校

R: 高須賀 INS: 岡田氏

【INS 分析】

駒澤が負けている終盤での ADV の適用は、サッカー観の高さを表すサポートできるものでした。また、終始スローインの再開場所をリードする部分は好感を持ってました。この試合のアドバイスは大きくわけて 2 つです。1 つはクイックリスタートを保障してマネジメントしていましたが、パスコースの邪魔になることがありました。立ち位置の工夫が必要です。2 つ目はゴール前のポジショニングで 15m の距離感はブレていないですが、角度をつけ死角が生まれないように修正することです。



11:30 昼食

13:30 試合実践

北海道静内高等学校 vs 駒澤大学付属苫小牧高等学校

R: 丑屋 A1: 細谷氏 4th: 岩本 INS: 今川氏

【INS分析】

全体的にシグナルは分かりやすく、示す時間も適切でした。アドバイスは次の2点です。①プレーのビフォーを意識して(スルーパスの前、FKが蹴られる前、ロングパスが蹴られる前、選手同士のコンタクト前など)動き出して、適切なポジショニングに努めて下さい。②考慮事項を軸に判定し、またそれに伴ってカードが必要なのかを判断して下さい。懲戒罰の基準に課題が残りました。



15:00 振り返り

16:00 諸連絡・解散

11月4日(日)

9:50 集合

10:00 RAM 講義「アカデミー終了後に向けて」 INS: 古曾部氏

本講義では、映像を用いたディスカッションを行い、特に「不用意」とは何かに着目をした。競技規則において「不用意」とは、「競技者が相手にチャレンジするときには注意もしくは配慮に欠けていると判断される、または慎重さを欠いて行動すること」と定められている。また、コンタクトプレーをファウルか否かを判断するための考慮事項として、「接触部位、タイミング、選手の意図、強さ」などが挙げられることを整理した。二度と同じ事象が起きることのないサッカーにおいて、起きたことを正しく判定するためには①考慮事項を整理すること、②よりよいポジショニングを追究すること、などが重要になることを整理できた。

また、あと2回の活動で終了するアカデミー後の活動について、2年間の活動を今後活かしていくために自身の目標を改めて再確認し、目標を達成するための自分の取組が重要になることを再認識した。(マンダラチャートを3月までに作成する)

11:00 上級審判員講義 「Jリーグ審判員としての活動について」 船橋昭次氏

本講義では、Jリーグの審判員として活動されている船橋氏の経歴や活動などについてお話いただいた。船橋氏から特に学んだことは準備の大切さや活動に協力してくれる方々への感謝の気持ちを持つということである。準備の大切さについては、特にトレーニングの大切さである。普段仕事をしながら、時間を作ってトレーニングすることは我々地域カテゴリーの審判員にも通ずることで、大切なことを再認識した。周りの方々への感謝については、職場の人が気持ちよく送り出してくれることや家族への感謝など、自分が活動できていることが当たり前ではないと感じ、これまでより一層周りへの感謝を大切にしたいと感じた。

12:00 昼食・移動

14:00 Physical Check 「YoYo+Sprint Test」

INS: 岡田氏

アカデミーで行う最後のフィジカルチェックであった。1年目の1回目から記録を20%伸ばすことを目標に2年間取り組んできた。全員が20%伸ばすことはできなかったが、2年間高い目標を保ちながら高い水準をキープできたことはよかった。アカデミー終了後は複数人でフィジカルチェックを行う機会は減るが、地域内での競争意識を持ち地域全体で高い水準を保つことができるようトレーニングに励むことが重要であると感じた。アカデミー生 YOYO 平均 52 本。

16:00 諸連絡・解散

